

「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」
にもとづく高校改革の進行状況について

中間まとめ

平成 19 年 8 月

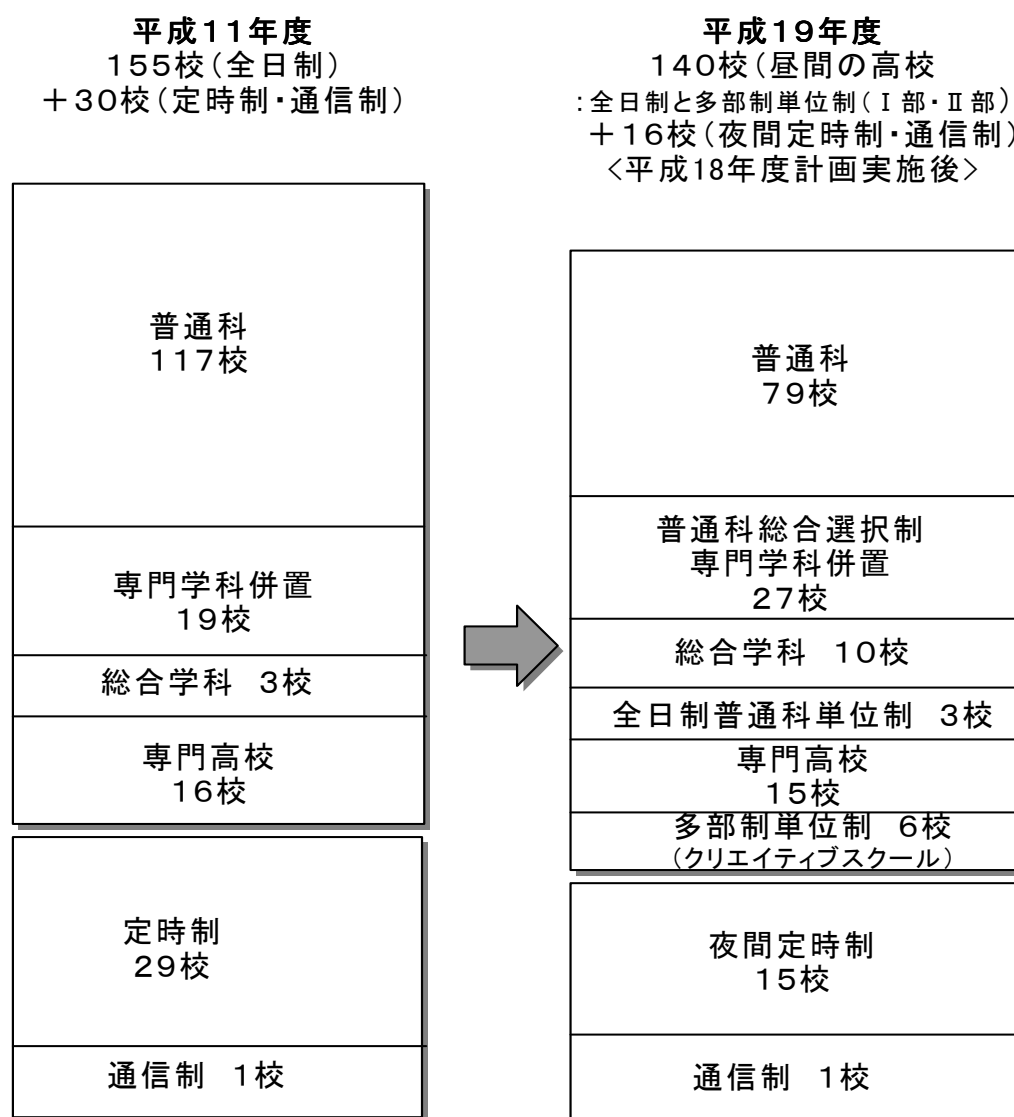
大阪府教育委員会事務局教育振興室高校改革課

－ 目 次 －

はじめに	-----	2
第1章 総合学科高校	-----	4
第2章 普通科総合選択制高校	-----	11
第3章 工科高校	-----	18
第4章 多部制単位制高校 (クリエイティブスクール)	-----	24
第5章 夜間定時制の課程	-----	30
第6章 国際・科学高校	-----	37
第7章 全日制普通科単位制高校	-----	41
資料	-----	44

はじめに（「中間まとめ」にあたって）

大阪府教育委員会は、大幅な生徒減少と国際化や情報化、少子高齢化等の社会情勢の変化が続くなか、生徒一人ひとりが目的意識を持ち、いきいきと学べるよう、平成11年度から「全日制府立高等学校特色づくり・再編整備計画」、平成15年度から「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」を進めてきました。



「特色づくり」の推進では、社会の変化と多様な学びのニーズに対応して、「入れる学校」から「入りたい学校」へと生徒が主体的に学べる新しいタイプの高校づくりを進めてきました。

また、「再編整備」では、中学校卒業生数の減少に対応して、適正な学校の規模を保ちつつ活力ある学校づくりを進めてきました。

工科高校や多部制単位制高校など今年度初めての卒業生を送り出す学校もあり、改革途上ですが、「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」が平成20年度で終了するにあたり、現時点でのデータ、指標をもとに「中間まとめ」として学校タイプ別にそれぞれの進行状況についてとりまとめました。

この「中間まとめ」を作成して、今後中学校や高等学校及びその他関係者の意見を伺いながら、高校改革の成果と課題を整理して報告書としてまとめて、引き続き高校教育の一層の充実を図りたいと考えております。

この趣旨をご理解いただき、ご意見をお寄せ頂きますようお願いいたします。

平成19年8月

大阪府教育委員会教育振興室

高校改革課

第1章 総合学科高校

1. 総合学科高校の理念及び特色

(1) 設置理念

普通科目と専門科目の両方にわたって、多くの選択科目を設定し、生徒自ら科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つめていく力をはぐくむ学校として「総合学科」を設置する。(全体計画)

(2) 特色

- 普通科目と専門科目にわたる多様な科目の設定
- 多様な選択科目を設置し、選択の目安としての「系列」を設定
- 総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」を中心とするキャリア教育の充実

2. 府における総合学科高校

特色づくり・再編整備計画による総合学科高校

学校名	開校年度	設置系列名	所在地等
枚岡樟風	平成 13年度	食と生命を科学する、情報とメディアを活かす、 ものづくりに親しむ、教養を高める	東大阪市鷹殿町 食品産業高校と玉川高校との統合
芦間	平成 14年度	自然科学とテクノロジー、文化と社会 国際理解とコミュニケーション、 造形とメディア表現、生活と健康	守口市外島町 守口高校と守口北高校との統合
堺東		堺学、英語、理数、医療・看護、 スポーツ・芸術	堺市南区晴美台 単独改編
八尾北	平成 15年度	国際コミュニケーション、福祉ネットワーク、 情報・テクノロジー、人間科学、 ライフクリエーション	八尾市萱振町 単独改編
貝塚	平成 16年度	人とともに生きる、自然とともに生きる、 文化の理解を深める、自己を表現する、 情報の活用力を育む	貝塚市畠中 単独改編
千里青雲	平成 19年度	教育、健康、国際、科学、文化	豊中市新千里南町 東豊中高校と少路高校との統合

特色づくり・再編整備計画以外の総合学科高校

学校名	開校年度	設置系列名	所在地
柴島	平成 8年度	福祉、エコロジー・サイエンス、 都市デザイン、多文化理解、 ライフデザイン	大阪市東淀川区柴島
今宮		理数、生命科学、芸術・体育 文化・社会、国際理解	大阪市浪速区戎本町
松原		ヒューマンネットワーク コミュニティー、マルチメディア スポーツ&カルチャー、 エコロジー・サイエンス	松原市三宅東
能勢	平成 16年度	国際・情報、環境科学、 食・花・交流、人間・福祉	豊能郡能勢町 連携型中高一貫総合学科

3. 総合学科高校の状況

(1) 入学者選抜の状況

 は、改革前

【志願倍率】

校名	開校年度	母体校	志願倍率							
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
柴島	平成8年度	柴島	2.07	1.71	1.73	1.61	1.48	1.33	1.55	1.20
松原	平成8年度	松原	1.95	1.88	1.83	1.44	1.53	1.61	1.33	1.35
今宮	平成8年度	今宮	2.40	2.29	2.09	1.94	1.90	1.70	1.79	1.64
枚岡樟風	平成13年度	玉川	1.16	1.55	1.58	1.43	1.63	1.28	1.22	1.34
		食品産業	1.33							
芦間	平成14年度	守口	1.11	1.27	3.41	1.73	1.60	1.30	1.22	1.46
		守口北	1.05	1.14						
堺東	平成14年度	堺東	1.35	1.18	1.95	1.90	1.83	2.09	1.89	1.64
八尾北	平成15年度	八尾北	1.27	1.47	1.31	2.34	1.70	1.61	1.50	1.50
貝塚	平成16年度	貝塚	1.22	1.25	1.26	1.18	2.10	1.95	1.91	1.68
千里青雲	平成19年度	少路	1.11	1.27	1.19	1.04	1.03	1.01	1.13	1.34
		東豊中	1.27	1.16	1.12	1.30	1.24	1.26	1.42	
総合学科平均倍率			2.13	1.85	2.08	1.76	1.72	1.62	1.56	1.46

※ 能勢高校（能勢地域連携型中高一貫教育に係る入学者選抜実施校）を除く。

- 改革前後の志願倍率を比べると、ほとんどの学校で改革後の志願倍率が上回っている。
- 入学者に占める女子の割合が高い学校が多い。
(平成19年度 女子比率 平均 66.2%)
 - ・ 学校行事や部活動に影響があると考えられる学校がある。

【平成19年度選抜 合格者数】

校名	柴島	松原	今宮	枚岡樟風	芦間	堺東	八尾北	貝塚	千里青雲	合計	比率	
募集人員	280	280	240	240	240	280	231	280	280	2,351	100	
合格者(人)	男	75	79	73	72	72	123	70	106	125	795	33.8%
	女	205	201	167	168	168	157	161	174	155	1,556	66.2%

※ 能勢高校（能勢地域連携型中高一貫教育に係る入学者選抜実施校）を除く。

(2) 学習における多様な選択肢 ～ 系列の設定と多数の選択科目の開設 ～

- 各校とも4から5つの系列があり、国際理解、環境、情報に関わる系列、母体校の専門科目を生かした系列及び地域性を取り入れた系列を設置している。
- 設置科目数の平均は156.2科目、そのうち学校設定科目を含めた普通教科の科目が88.8科目、専門教科の科目が44.0科目、学校設定教科の科目が23.4科目である。普通科目と専門科目の両方にわたって、多くの科目を設定している。

平成18年度総合学科高校の設置科目数の平均

	普通教科の科目数 (内 学校設定科目数)	専門教科の科目数 (内 学校設定科目数)	学校設定教科 の科目数	合計
総合学科高校 の平均	88.8 (43.3)	44.0 (19.1)	23.4	156.2

(3) 学校の活力その1 ～ 「産業社会と人間」等の活用 ～

- 1年次の原則履修科目「産業社会と人間」においては、将来の自分の進路を考えるための様々な体験活動やガイダンスなどを行うとともに、自己・他者理解を目的とした取組みや自己表現力や情報活用能力を高めるためのディベート、テーマ学習、発表会を実施している。また、2年次以降は「総合的な学習の時間」などで、「産業社会と人間」を踏まえた内容を実施している。
- 平成18年度、府内の総合学科高校全体での「大阪府総合学科高等学校研究発表会」が開催された。平成19年度も12月に開催が予定されている。

(4) 学校の活力その2 ～ 部活動の活性化 ～

- 改革後、部活動加入率が上昇した学校が多い。

部活動加入率

部活動加入率	改革前年度	平成18年度
総合学科高校の平均	35.3	48.0

(5) 学校の活力その3 ～ 中退率の変化 ～

- 生徒の興味・関心に応じた多様な科目設定や、「産業社会と人間」を始めとする様々な教育活動で実施しているガイダンスの充実などにより、改革後、総合学科高校全体の中退率は下がっている。

改革前と改革後の中退率

改革前 普通科及び専門学科	平成12年度		改革後 総合学科	平成17年度	
	中退者数	中退率		中退者数	中退率
玉川、食品産業、守口、 守口北、堺東、八尾北、 貝塚	290	5.7	枚岡樟風、芦間、 堺東、八尾北、貝塚	88	2.5

(6) 総合学科高校における進路選択の状況

- 平成17年度に卒業生を出した4校（枚岡樟風、芦間、堺東、八尾北）とも、改革前と比べて進学する生徒が増加した。また、進路未定者を含む「その他」の割合が改革前に比べて、32.7%から13.7%へと下がっている。「産業社会と人間」を中心とするキャリア教育が有効に機能していると考えられる。

改革前と改革後の進路状況

年度	学校名	卒業者数	大学	短期大学	専門学校等	就職	その他
平成14年度 (改革前)	玉川、食産、守口、 守口北、堺東、八尾北	1,222人	26.4% (322人)		20.7% (253人)	20.3% (193人)	32.7% (399人)
平成17年度 (改革後)	枚岡樟風、芦間、 堺東、八尾北	911人	28.8% (262人)	13.7% (125人)	24.7% (225人)	19.1% (174人)	13.7% (125人)

4. 生徒アンケートの結果から

平成17年度末及び平成18年度末に総合学科高校の校長会が3年次生対象に実施した生徒アンケート調査から下記のような結果を得た。（平成17年度は堺東高校除く）

- すべての項目で50%以上の生徒が肯定的（「よくあてはまる」または「ややあてはまる」）に回答した。
- 特に、「総合学科で学んでよかった。」という質問及び、「科目選択については選びたい科目を選べた。」という質問については8割以上の生徒が肯定的に回答している。
また、「学校行事に総合学科らしさを感じた。」や「学校の様々な取組みを通じて自分で考える力や自主性を伸ばすことができた。」の質問にも7割から8割近い生徒が肯定的に回答した。
- 原則履修科目「産業社会と人間」に関する質問について肯定的な回答の割合は、平成17年度には54%程度であったが、平成18年度は59%程度に上昇している。

☆☆☆ 生徒アンケートの結果 ☆☆☆

総合学科 平成18年度卒業時 生徒アンケート結果〔()内は17年度アンケート結果〕

質問項目	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
総合学科で学んでよかった。	56.7% (54.3)%	30.1% (32.6)%	9.3% (9.0)%	3.0% (3.0)%
	86.8% (86.9)%			
選択科目の内容は全体的に見て期待通りであった。	19.5% (25.4)%	48.7% (40.8)%	22.2% (24.1)%	8.0% (8.0)%
	68.2% (66.2)%			
科目選択の決定についてのガイダンス(説明や相談)は十分であった。	23.9% (27.7)%	41.7% (36.0)%	24.6% (24.7)%	7.9% (8.8)%
	65.6% (63.7)%			
科目選択については選びたい科目を選べた。	35.6% (29.4)%	44.9% (53.0)%	13.8% (15.0)%	5.7% (2.6)%
	80.5% (82.4)%			
選択した科目で自分の進路選択につながるものが十分あった。	37.3% (29.4)%	32.3% (34.8)%	18.5% (24.4)%	9.7% (9.7)%
	69.6% (64.2)%			
「産業社会と人間」では、進路(ライフプランの確立)や将来の社会参加につながる体験や参考にすることがあった。	21.0% (15.5)%	38.1% (39.4)%	28.1% (29.3)%	10.6% (12.8)%
	59.1% (54.9)%			
「産業社会と人間」では、研究や発表など創意工夫ができる機会を豊富に持つことができた。	19.6% (14.3)%	39.5% (39.8)%	27.9% (30.2)%	10.2% (11.6)%
	59.1% (54.1)%			
学校生活や学校行事においても、総合学科らしさを感じることができた。	41.0% (39.6)%	36.0% (39.7)%	15.2% (13.7)%	6.0% (4.8)%
	77.0% (79.3)%			
総合学科の様々な取り組みで、自分で考える力や自主性をのばすことができた。	34.9% (34.8)%	39.3% (42.5)%	19.1% (15.3)%	4.4% (4.0)%
	74.2% (77.3)%			
総合学科の様々な取り組みで、自己表現(話す力など)や他者理解(聞き取る力など)などのコミュニケーションの能力が身についた。	31.3% (29.6)%	39.2% (43.4)%	21.0% (18.8)%	5.4% (4.8)%
	70.5% (73.0)%			
学校の施設・設備に満足できた。	28.6% (24.3)%	42.4% (43.5)%	19.7% (19.8)%	6.9% (8.3)%
	71.0% (67.8)%			

5. 総合学科高校のまとめ

- 平成19年度入学者選抜における総合学科(能勢高校を除く)の平均志願倍率は1.46倍であり漸減傾向であるが、府内全日制の高等学校の平均志願倍率1.28と比べても依然高い状況である。
- 平成19年度選抜では男子の割合が増加したが、総合学科高校の生徒の男女比率は男子が約3割、女子が約7割と女子の割合が高い状況であり、学校行事や部活動に影響があると考えられる学校がある。

- 各校、4 から 5 系列が設定され、普通科目と専門科目の両方にわたる多くの選択科目が開設されている。生徒は、科目選択のガイダンス等を参考にしながら、興味・関心や将来の進路を考えて自ら学びたい科目を選択している。
- 改革後、部活動加入率が上昇した学校が多い。また、中退率は下がった学校が多い。
- 改革前と比べて、進学する生徒数が増加した。また、進路未定者を含む「その他」の率が半分以下に下がっていることから、「産業社会と人間」をはじめとする様々な教育活動で実施しているガイダンスなどが有効に機能していると考えられる。
- 多くの生徒は卒業時に、「総合学科高校で学んでよかった」と思い、総合学科の多様な取組みを通して、「自分で考える力や自主性を伸ばすことができた」、「コミュニケーション能力がついた」と感じている。
- 今後も、生徒のニーズに対応した多様な学びやガイダンスの充実に一層の工夫が求められている。

第2章 普通科総合選択制高校

1. 普通科総合選択制高校の理念及び特色

(1) 設置理念

普通科の中で選択科目を多く設定し、基礎学力を重視しながら生徒一人ひとりの興味・関心にあった学習を通じて、進路実現の力をはぐくむ学校として「普通科総合選択制」を設置する。(全体計画)

(2) 特色

- 基礎学力の充実
- 「エリア」の設置による、興味・関心にあった学習の展開
- 多様なエリア指定科目・自由選択科目の開設
- 進路実現の力の育成

2. 府における普通科総合選択制高校

学校名	開校年度	設置エリア名	所在地等
福井	平成	国際コミュニケーション、福祉、 スポーツ健康、情報表現、環境、理数	茨木市西福井 単独改編
門真なみはや	13年度	国際、情報、福祉、 人文芸術、スポーツ、自然科学	門真市上島頭 門真高校と門真南高校との統合
八尾翠翔	平成	英語専攻、人文社会、体育専攻、 理数専攻、看護医療	八尾市神宮寺 八尾東高校と八尾南高校との統合
日根野	14年度	人文科学探究、理数科学探究、国際文化探究、 人間環境探究、自己表現探究	泉佐野市日根野 単独改編
豊島	平成	歴史文学探訪、理数科学、マイスポーツ、 情報・表現、英語総合、生活文化	豊中市北緑丘 単独改編
西成	平成	人文社会、地域・国際、生活・健康、 福祉・介護、科学・情報、芸術・文化	大阪市西成区津守 単独改編
成美	平成	情報、福祉・こども、国際理解、 自己創造、人文地域、自然科学	堺市南区城山台 美木多高校と上神谷高校との統合
大正	平成	美術創造、文理総合、情報表現、 生活健康、国際理解	大阪市大正区泉尾 単独改編

枚方なぎさ	平成 16年度	理数・自然、人文・社会、英語・文化、 生命・人間、生活・地域、芸術・情報	枚方市磯島元町 磯島高校と枚方西高校との統合
かわち野		情報技術、環境科学、国際理解、 創造・表現、生活・福祉、河内モノづくり	東大阪市新庄 盾津高校と加納高校との統合
金剛		理数科学、生命科学、情報、 生活文化、国際、人文	富田林市藤沢台 単独改編
伯太		生活・現代、創造・表現、地域・文化、 国際・環境、スポーツ・健康、メディア・情報	和泉市伯太町 単独改編
緑風冠	平成 18年度	人文・文化、理数・自然、英語・国際、 生命・環境、表現・活動、人間・教育	大東市深野 大東高校と南寝屋川高校との統合
北摂つばさ	平成 19年度	生命・エコロジー、保育・福祉、学び探究、 国際理解、情報とくらし、アート・スポーツ	茨木市玉島台 茨木東高校と鳥飼高校との統合

3. 普通科総合選択制高校の状況

(1) 入学者選抜の状況

ほとんどの学校で改革前に比べ志願倍率が上昇しており、前期入学者選抜に移行した平成17年度以降は1.6倍前後で推移している。

志願倍率（平均）

年度	平成13 年度	平成14 年度	平成15 年度	平成16 年度	平成17 年度	平成18 年度	平成19 年度
平均	1.17	1.11	1.17	1.13	1.70	1.57	1.58

志願倍率（各校別）

学 校 名	開校年度	母体校名	改革前の 志願倍率	改革後の志願倍率		
				平成17年度	平成18年度	平成19年度
福井	平成 13年度	福井	1.15	2.33	1.36	1.43
		門真 門真南	1.04 1.10			
八尾翠翔	平成 14年度	八尾南	1.19	1.77	1.53	1.70
		八尾東	1.14			

日根野		日根野	1.10	1.70	2.12	1.68
豊島	平成 15年度	豊島	1.26	1.65	1.63	2.09
西成		西成	1.07	1.25	1.09	1.06
成美		上神谷 美木多	1.37 1.18	1.61	1.76	1.54
大正	平成 16年度	大正	1.07	1.44	1.30	1.32
枚方なぎさ		枚方西 磯島	1.10 1.03	1.68	1.58	1.53
かわち野		加納 盾津	1.21 1.01	1.40	1.20	1.36
金剛		金剛	1.15	1.98	2.02	1.54
伯太		伯太	1.27	2.11	1.68	1.95
緑風冠		平成 18年度	南寝屋川 大東	1.13 1.10	1.13 1.10	1.77
北摂つばさ	平成 19年度	烏飼 茨木東	1.17 1.20	0.99 1.14	1.17 1.20	1.98
普通科総合選択制				1.70	1.57	1.58

(2) 基礎学力の重視と選択幅の拡大

- 基礎学力を重視する取組みとして、習熟度別授業、少人数授業、英語検定や漢字検定等の資格取得の取組み及び補習・講習などを実施している。
- 設置エリアは5から6。エリア指定科目（8単位から12単位）は24から51科目を設置している。
- 自由選択科目は47から97科目、そのうち学校設定科目は18から60科目である。専門科目を10科目以上設置している学校は3校ある。平均開講率は85%を超えている。

平成 18 年度普通科総合選択制高校の設置科目数の平均

エリア指定科目数	自由選択科目数	学校設定科目数	専門科目数
24～51	47～97	18～60	2～13
	平均 70	平均 35	平均 7

(3) 学校の活力 その1 ～ 学校行事の活性化 ～

○ 学校からの報告では、

- ・ エリア学習は、「自分を表現する力」、「発表する力」、「相手とコミュニケーションする力」の育成にも重点をおいている結果、それらの力を身に付けた生徒が体育祭・文化祭に積極的に取り組んでいる。例えば、体育祭では応援団の参加者が増加し、文化祭では長時間の準備を必要とする舞台発表、演劇等を希望するクラスが増加している。
- ・ 総じて生徒は目的意識を持って入学し、「自分が選んだ学校」として主体的・積極的に活動し、学校行事にも意欲的に取り組んでいる。

としている。

(4) 学校の活力 その2 ～ 部活動の活性化 ～

部活動加入率の改革前の状況と平成18年度の状況は下表のとおりである。ほとんどの学校で加入率は上昇している。

部活動加入率

	※改革前年度	平成18年度
部活動加入率	34.4%	47.8%

※改革前年度のデータは、下記対象校の開校前年度のデータを平均したもの

《データの対象校》豊島・福井・大正・門真なみはや・枚方なぎさ・八尾翠翔
かわち野・西成・金剛・成美・伯太・日根野・緑風冠

(5) 学校の活力 その3 ～ 中退率の変化 ～

改革前と改革後の中退率の変化は下表のとおりであり、普通科総合選択制高校全体としての中退率は下がっている。

中退率

	改 革 前		改 革 後	
	平成11年度	平成12年度	平成16年度	平成17年度
中退者数	599人	616人	298人	299人
中 退 率	4.53%	5.07%	3.86%	3.61%

《データの対象校》

豊島・福井・大正・門真なみはや・枚方なぎさ・八尾翠翔
かわち野・西成・金剛・成美・伯太・日根野

(6) 普通科総合選択制高校における進路選択の状況

進路選択の状況は、「就職」の割合が下がり、「大学」の割合が上昇した。また、未定者を含む「その他」が半減したことが特徴的である。

進路状況

	年度	卒業者数	大学	短期大学	専門学校等	就職	その他
改革前	平成9年度	1675人	14.7% (246人)	22.4% (376人)	24.8% (415人)	20.7% (347人)	17.4% (291人)
	平成10年度	1564人	17.5% (273人)	17.8% (279人)	29.5% (462人)	18.4% (288人)	16.8% (262人)
改革後	平成16年度	941人	27.1% (255人)	19.3% (182人)	31.2% (294人)	10.9% (103人)	11.4% (107人)
	平成17年度	936人	33.3% (312人)	16.7% (156人)	31.4% (294人)	9.3% (87人)	9.3% (87人)

《データの対象校》 福井・門真なみはや・八尾翠翔・日根野

4. 生徒アンケート調査の結果から

アンケート調査は平成 18 年 12 月～平成 19 年 1 月に普通科総合選択制高校の校長会が実施した。対象は、平成 18 年度に普通科総合選択制の 3 年生が在籍している 12 校（豊島・福井・大正・枚方なぎさ・門真なみはや・八尾翠翔・かわち野・西成・金剛・成美・伯太・日根野）の 3 年生である。

○ 「普通科総合選択制で学んでよかった」に肯定的回答（「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の回答の計）をした者が 76.4%、「エリアの学習は興味・関心を満足させた」に肯定的回答をした者は 64.8%、「自由選択科目は選びたい科目を選ぶことができた」に肯定的回答をした者は 70.6%である。

○ 「エリア選択のガイダンスは十分であった」に対する肯定的回答は 60%弱であり、他の項目に比べてやや低くなっている。

生徒アンケートの主な質問項目と回答

質 問 項 目	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
普通科総合選択制の高等学校で学んでよかった	26.2%	50.2%	17.3%	6.2%
	76.4%			
1年生のとき、2年次のエリア選択のガイダンス（説明や相談）は十分であった	15.2%	43.2%	30.8%	10.8%
	58.4%			
2年生のとき、3年次のエリア選択のガイダンス（説明や相談）は十分であった	16.2%	43.4%	29.7%	10.7%
	59.6%			
エリアの学習は自分の興味・関心を満足させた	21.9%	42.9%	25.9%	9.3%
	64.8%			
自由選択科目の科目選択については、選びたい科目を選ぶことができた	26.1%	44.5%	21.5%	7.9%
	70.6%			

5. 普通科総合選択制高校のまとめ

- ほとんどの普通科総合選択制高校において、改革前に比べ入学者選抜志願倍率が上昇し、前期選抜に移行した平成 17 年度以降は 1.6 倍前後で推移している。
- エリア指定科目は 24～51 科目、自由選択科目は 47～97 科目となっており、普通科総合選択制のシステムを活かした多様な選択科目が開設されている。
- 普通科総合選択制への改編によって、体育祭では応援団の参加者が増加し、文化祭では長時間の準備を必要とする舞台発表、演劇等を希望するクラスが増加するなど、学校行事は活性化している。
- 改革後、部活動加入率も 10 数ポイント上昇した。一方、中退率は 1 ポイント程度下がった。
- 卒業後の進路については、改革後、「就職」の割合が下がり、「大学」の割合が上昇した。また、未定者を含む「その他」が半減したことが特徴的である。
- 生徒アンケートでは、「普通科総合選択制の高等学校で学んでよかった」という回答が 76.4%となっているなど、全般的に生徒の満足度は高かった。
- 具体的な生徒の感想としては、「自分の受けたい授業を選択したため、学校での時間が過ぎるのがとても早く感じた」「勉強をさせられている感じがなく、自分のために勉強するのだと思うようになった」「専門的な知識や普通科では学べない知識を学ぶことができた」「自分の進路を考える機会が多くあり、自分の将来を真剣に考える事ができた」などがある。
- エリア選択・科目選択をサポートするために、情報提供・個別相談・助言など、ガイダンス機能の一層の充実が求められている。

第3章 工科高校

1. 工科高校の理念及び特色

(1) 設置理念

産業構造の変化や技術の複合化などに柔軟に対応できる幅広い知識や技術の基礎・基本を備えた将来のスペシャリストとなる人材育成をめざし、専門分野の深化と、高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続という2つの方向性を基本として、教育内容の充実を図るとともに、再編整備を実施する。（全体計画）

(2) 特色

- 専門分野の〔深化〕と高度な専門性を身に付けるための高等教育機関への〔接続〕
- 学科ごとの募集から総合募集へ
1年生で工業の基礎知識を学び、2年生からの系・専科で専門分野を幅広く学ぶとともに知識・技術・技能の深化を図る。

2. 府における工科高校

学校名	開校年度	設置系（専科）名	所在地
茨木工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・生産技術・機械制御） 電気系（電気技術・電子情報通信） 環境化学システム系（環境システム・化学システム）	茨木市春日
西野田工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・生産技術・機械制御） 電気系（電気技術・電子制御） 建築都市工学系（建築システム・都市工学） 工業デザイン系（工業デザイン）	大阪市福島区大開
淀川工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・機械設計） 電気系（電気技術・電子情報通信） メカトロニクス系（ロボット工学・制御システム）	大阪市旭区太子橋
今宮工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・生産技術） 電気系（電気技術・電子制御） 建築系（建築設計・建築生産） グラフィックデザイン系（グラフィックデザイン）	大阪市西成区出城
城東工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・機械設計） 電気系（電気技術・電子情報通信） メカトロニクス系（ロボット工学・制御システム）	東大阪市西鴻池町
布施工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・生産技術・機械制御） 電気系（電気技術・電子情報通信） 建築設備系（建築システム・設備システム）	東大阪市宝持
藤井寺工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・機械設計） 電気系（電気技術・電子情報通信） メカトロニクス系（ロボット工学・制御システム）	藤井寺市御舟町

堺工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・機械制御） 電気系（電気技術・電子制御） 環境化学システム系（化学分析技術・環境システム）	堺市堺区大仙中町
佐野工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・機械設計） 電気系（電気技術・電子制御） テキスタイル系（プロダクト工学・デザイン工学）	泉佐野市高松東

3. 工科高校の状況

(1) 入学者選抜の状況

平成 17 年度、工科高校への改編こともない、その取組み内容に関する周知状況や平成 19 年度の通学区域改正などにより志願状況に偏りがあるが、工科高校全体の志願倍率は 1.2 倍程度となっている。

《工業、工科高等学校の選抜における志願倍率》

選抜年度	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
西野田工科	1.08	1.41	1.10	0.96	1.16
淀川工科	1.32	1.35	1.13	1.14	0.98
今宮工科	1.04	1.34	1.02	1.05	1.06
茨木工科	1.60	1.45	1.15	1.08	1.39
城東工科	1.36	1.45	1.17	1.18	1.17
布施工科	1.11	1.41	1.12	1.23	1.20
藤井寺工科	1.33	1.31	1.18	1.21	1.14
堺工科	1.35	1.31	1.42	1.41	1.25
佐野工科	1.59	1.60	1.74	1.56	1.59
府立工業・工科高校 全体の募集定員	3,000人	2,960人	2,800人	2,800人	2,800人
府立工業・工科高校 全体の志願者数	3,925人	4,193人	3,419人	3,355人	3,396人
府立工業・工科高校 全体の志願倍率	1.31倍	1.42倍	1.22倍	1.2倍	1.21倍

※ 上の表で、平成 16 年度までは府立の工業高校は 12 校（表の9校と成城工業、東住吉工業、和泉工業、総募集学級数は 75 または 74 学級）。

※ 平成 17 年度選抜からは、工科高校9校（総募集学級数 70 学級）

(2) 総合募集と系・専科の選択

- これまでの電気科、機械科のような小学科による選抜ではなく、工業の基礎・基本となる内容を幅広く学ぶために入学時は工業科という大学科で選抜する総合募集を実施している。

- 1年生で学んだ基礎的内容をもとに、2年生から系・専科を選択して専門的な内容を深めている。ガイダンスの科目や生徒・保護者への説明会、懇談会、個別の相談会などを通して、これまで2年間、生徒の希望に沿った系・専科の選択になっていると報告がある。

《系・専科の選択に係る説明会等の実施状況》

		回数や時期	具体的内容
生徒・保護者への説明会など	生徒対象の説明会	平均4～5回	ガイダンスの科目や全体説明会・系列の説明科など
	生徒対象の相談会	平均的に3回程度の相談会を設定しているが相談は随時対応している	担任や系長・系の教員などと相談
	保護者対象の説明会	年間に2回程度実施	系・専科についての説明と選択手順についての説明など
	保護者対象の相談会	平均的に2回の相談会を設定しているが希望があれば随時対応している	系・専科の希望状況や意思決定にかかわる相談
授業	授業での取り組み	授業の内容により3回から10回まで実施	ガイダンスの科目やホームルームなどで担任や科目担当者から説明
部進の路取指導	進路系の相談会	年に1回程度	進路希望者別説明会や全体進路説明会を実施

(3) 〔深化〕及び〔接続〕の取り組みの状況

- 2年生から選択する系・専科には、それぞれ〔深化〕や〔接続〕に対応した教育課程を設定している。
- 工科高校への再編整備に伴い、各系に必要な専門分野の新しい知識と技術・技能を習得し、新しい工業教育に資するため、教員対象の「工科高校スキルアップ研修」を平成16年から3カ年間実施し、各年平均50名程度の教員が受講した。(府立工業高等学校及び府立工業高等学校から再編整備した学校の工業担当教員対象)
- 校内で「深化委員会」などを設置し、新しい工業教育を進めている。また、積極的に地域と交流して生徒の技術発表の場を設定している学校や、大学のコンテストや全国規模の大会・コンクールに参加させ、優秀な成績を上げている学校もある。

- 工業に関する技術や技能の資格取得を積極的に取り組み、また奨励や表彰にも努めている。
- 「接続」の取組みとして、高等教育機関への進学を希望する生徒に対して、放課後や長期休業中に講習や補習を実施し、学力の向上を支援している。
- 工科高校の校長会が中心となって工学系学部を設置する大学などの進路開拓を行っている。

(4) 中退率の変化

中途退学の状況は、工科高校全体で0.4ポイント下がった。(1年生)

《工業・工科高校における中途退学者の状況》

		平成16年度	中退率	平成17年度	中退率
工科全体	1年合計	195人	8.2%	223人	7.8%
	1年在籍計	2,371人		2,842人	

4. 生徒アンケートの結果から

平成 18・19 年度、工科高校生徒意識調査（アンケート）を実施した。意識調査の対象は1・2年生とした。

- 「工業に関する事からで興味・関心があるもの」については、1・2年生とも「エンジンの構造」「コンピュータ」等の関心が高く、「金属加工」、「ロボット製作」、「金属溶接」、「住宅建築」などが続いている。
- 1・2年生とも就職希望者が50%台であり、これは、1年生意識調査の受験理由の「就職に有利」と答えた割合とほぼ一致している。進学希望者は、1・2年生とも20%程度である。
- 系・専科の選択に関する説明会等の理解度については、「よくわかった」「だいたいわかった」という肯定的回答が、平成19年度は72.2%（平成18年度は67.6%）であり概ね生徒に理解されている。

《1年生生徒意識調査》

○ 次の工業に関する事からのなかで、興味・関心があるものはどれですか。(回答は3つまで)

	平成18年度 在籍2796人		平成19年度 在籍2856人	
	人数	割合	人数	割合
金属加工	717人	25.6%	763人	26.7%
エンジンの構造	918人	32.8%	947人	33.2%
機械の設計製図	443人	15.8%	538人	18.8%
金属溶接	474人	17.0%	524人	18.3%
電気工事	401人	14.3%	476人	16.7%
コンピュータ	861人	30.8%	774人	27.1%
電子工作	413人	14.8%	317人	11.1%
無線通信	194人	6.9%	243人	8.5%
ロボット製作	638人	22.8%	560人	19.6%
太陽光風力発電	207人	7.4%	184人	6.4%
石鹼の製造	89人	3.2%	103人	3.6%
薬品成分分析	90人	3.2%	117人	4.1%
住宅設計製図	368人	13.2%	379人	13.3%
住宅建築	623人	22.3%	573人	20.1%
橋道路の建設	155人	5.5%	137人	4.8%
空調水道ガス配管	138人	4.9%	133人	4.7%
家具インテリア	302人	10.8%	290人	10.2%
グラフィック製品	186人	6.7%	175人	6.1%
服飾デザイン	213人	7.6%	187人	6.5%
その他	84人	3.0%	77人	2.7%

○ 将来の進路希望について

	平成18年度 在籍2796人		平成19年度 在籍2856人	
	人数	割合	人数	割合
進学	602人	21.5%	564人	19.7%
四年制大学	229人	8.2%	220人	7.7%
短期大学	46人	1.6%	31人	1.1%
工業高専	94人	3.4%	102人	3.6%
専門学校	247人	8.8%	235人	8.2%
他の進学	18人	0.6%	20人	0.7%
就職	1575人	56.3%	1685人	59.0%
その他	46人	1.6%	45人	1.6%
未定	479人	17.1%	449人	15.7%

《2年生生徒意識調査》

○ 次の工業に関する事の中から、興味・関心があるものはどれですか。(回答は3つまで)

	平成18年度 在籍2414人		平成19年度 在籍2464人	
	人数	割合	人数	割合
金属加工	488人	20.2%	521人	21.1%
エンジンの構造	761人	31.5%	807人	32.8%
機械設計製図	248人	10.3%	206人	8.4%
金属溶接	445人	18.4%	492人	20.0%
電気工事	353人	14.6%	398人	16.2%
コンピュータ	708人	29.3%	695人	28.2%
電子工作	304人	12.6%	328人	13.3%
無線通信	137人	5.7%	135人	5.5%
ロボット製作	450人	18.6%	432人	17.5%
太陽光風力発電	183人	7.6%	191人	7.8%
石鹼の製造	83人	3.4%	71人	2.9%
薬品成分分析	99人	4.1%	109人	4.4%
住宅設計製図	197人	8.2%	230人	9.3%
住宅建築	339人	14.0%	411人	16.7%
橋道路建設	121人	5.0%	136人	5.5%
空調水道等配管	79人	3.3%	107人	4.3%
インテリアデザイン	318人	13.2%	342人	13.9%
グラフィックデザイン	278人	11.5%	286人	11.6%
服飾デザイン	234人	9.7%	225人	9.1%
その他	97人	4.0%	60人	2.4%

○ 本校を受験した理由について

(1)学習面について	平成18年度 在籍2796人		平成19年度 在籍2856人	
	人数	割合	人数	割合
工業の勉強がしたい	1416人	50.6%	1407人	49.3%
どちらかというとなりたい	727人	26.0%	794人	27.8%
勉強内容は重視しない	616人	22.0%	623人	21.8%

(2)それ以外の理由

	平成18年度 在籍2796人		平成19年度 在籍2856人	
	人数	割合	人数	割合
就職に有利	1720人	61.5%	1708人	59.8%
大学進学が可能	243人	8.7%	261人	9.1%
クラブ活動	201人	7.2%	210人	7.4%
通学に便利	247人	8.8%	264人	9.2%
家族や先輩が行っていた	177人	6.3%	249人	8.7%
保護者の仕事柄	68人	2.4%	79人	2.8%
その他	160人	5.7%	141人	4.9%

○ 現在の希望進路

	平成18年度 在籍2414人		平成19年度 在籍2464人	
	人数	割合	人数	割合
進学	566人	23.4%	530人	21.5%
就職	1294人	53.6%	1359人	55.2%
その他	40人	1.7%	40人	1.6%
未定	309人	12.8%	333人	13.5%

(進学内訳)	人数	割合	人数	割合
4年制大学	238人	9.9%	231人	9.4%
短期大学	30人	1.2%	40人	1.6%
工業専門学校	83人	3.4%	91人	3.7%
他の専門学校	190人	7.9%	183人	7.4%
その他	15人	0.6%	14人	0.6%

○ 2年次の系・専科を選ぶ際の説明について、当てはまること

	平成18年度 在籍2414人		平成19年度 在籍2464人	
	人数	割合	人数	割合
よくわかった	267人	11.1%	274人	11.1%
だいたいわかった	1366人	56.6%	1505人	61.1%
あまりわからない	436人	18.1%	433人	17.6%
まったくわからない	171人	7.1%	252人	10.2%

5. 工科高校のまとめ

- 平成17年度、工科高校への改編にともない、その取り組み内容に関する周知状況や平成19年度の通学区域改正などにより志願状況に偏りがあるが、工科高校全体の志願倍率は1.2倍程度となっている。

- 総合募集により、1年生で工業の基礎・基本を学び、選択説明会や相談会などを通して2年生から系・専科を選択する。アンケート結果によると、系・専科の選択の説明で、「よくわかった」、「だいたいわかった」の回答があわせて70%程度あり、系・専科に対する理解が進んでいる。

- 〔深化〕と〔接続〕に対応した教育課程を設定している。
〔接続〕の取り組みでは、高等教育機関への進学希望者の学力向上をめざす講習や補習などを実施している。
〔深化〕の取り組みでは、技能審査の合格や資格取得のための取り組みに力を入れている。また、大会やコンテストなどにも積極的に参加し、優秀な成績をあげる学校もある。

- 工科高校全体の中退率は、平成17年度1年生で0.4ポイント下がった。

- 新しい工業教育の充実を図るため、大学等と積極的に連携を進めることが望まれる。

第4章 多部制単位制高校（クリエイティブスクール）

1 多部制単位制高校（クリエイティブスクール）の理念及び特色

（1）設置理念

生徒自ら学ぶ科目や時間帯を選択することにより目的意識を養い、進路目標に応じた多様な学習が可能となるよう、単位制で昼間の定時制のシステムを活用した、新しいタイプの学校として設置する。（全体計画）

（2）特色

- 多様な生徒のニーズに対応した多様な学びの提供
- 自分の生活スタイルに合わせて学ぶ時間帯を選択
- 自分のペースに合わせて三修制または四修制を選択
 - ※三修制（3年間で卒業を予定するカリキュラムのこと）
 - 四修制（4年間で卒業を予定するカリキュラムのこと）

（3）教育システム

- I部（午前部）、II部（午後部）など異なる時間帯に教育課程を設け、生徒は所属する部と他の部の教科・科目を履修することによって、学校の授業だけで3年で卒業できるシステムとする。
- 生徒が自らの進路や適性、興味・関心に基づいた系統的な選択ができるよう、内容的に相互に関連する科目群（普通科では「ワールド」、総合学科では「系列」）を複数設ける。
- 多様な教育課程を編成できるよう、二学期制で運営する。
- 多部制、単位制を活用することで、生徒は自分の生活スタイルにあった授業時間帯を選択し、進路や興味・関心に合わせた時間割をつくることができる。

2 府における多部制単位制高校（クリエイティブスクール）

学校名(学科)	開設年度	設置ワールド・系列名	所在地
咲洲 (普通科)	平成 15年度	マリン、マーケティング、 ネイチャー、アート・カルチャー、 コミュニケーション	大阪市住之江区 南港中

桃谷 (普通科)	平成 17年度	言語・表現活動、理数・科学、 ※芸術・文化、※健康・生活、 文理・探求(※はⅠ部のみ)	大阪市生野区 勝山南
箕面東 (普通科)	平成 17年度	情報・ビジネス、人文・アート、 国際・コミュニケーション、 福祉・スポーツ、環境・サイエンス	箕面市粟生外院
成城 (総合学科)	平成 17年度	数理科学、人文科学、生活デザイン、 情報技術、ものづくり	大阪市城東区 諏訪
東住吉総合 (総合学科)	平成 17年度	機械技術、電気技術、住環境、 競技スポーツ、英数、創作表現	大阪市平野区 喜連西
和泉総合 (総合学科)	平成 17年度	ものづくり、環境科学、情報科学、 生活文化、教養	和泉市富秋町

3. 多部制単位制高校(クリエイティブスクール)各校の状況

(1) 入学者選抜の状況

一部で志願割れがあったものの、3年間の平均志願倍率はⅠ部、Ⅱ部ともに1.2倍前後である。(咲洲高校のみ平成15年度開校)

《志願倍率》

学校名	部	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度
咲洲	Ⅰ	1.43	1.08	1.10	1.07	1.15
	Ⅱ	1.53	1.15	1.19	1.11	1.04
桃谷	Ⅰ	—	—	1.13	1.02	1.44
	Ⅱ	—	—	1.03	1.27	1.52
箕面東	Ⅰ	—	—	1.44	1.03	1.37
	Ⅱ	—	—	1.51	1.07	1.43
成城	Ⅰ	—	—	1.20	1.36	1.01
	Ⅱ	—	—	1.30	1.48	0.99
東住吉総合	Ⅰ	—	—	1.00	1.11	1.03
	Ⅱ	—	—	1.00	1.27	1.00
和泉総合	Ⅰ	—	—	1.32	1.15	1.34
	Ⅱ	—	—	1.44	1.60	1.65
平均	Ⅰ			1.21	1.12	1.22
	Ⅱ			1.27	1.31	1.24

(2) 多様な学びの状況

- 生徒の興味・関心、進路希望等に対応して、普通科3校は平均114科目、総合学科3校は平均134科目設置し、多様な学びを提供している。
- 大学や専門学校等における学修、技能審査の成果、ボランティア活動や就業体験等に係る学修など学校外における学修に係る単位認定や高等学校卒業程度認定試験の合格科目等の単位認定を行っている。
- 夜間定時制の課程に学ぶ生徒に対する教育支援の拠点校の役割を担うとともに、自校生徒等に対する教育支援として、土曜日に授業を実施（土曜開講）している。受講登録者数は、6校合わせて平成17年度は430人であり、単位修得率は43.3%、平成18年度は462人、41.3%であった。

《土曜開講の状況》

	科目数	募集 人数	受講登録者数				単位修得者 割合
			自校生	他校生	社会人	合計	
平成17年度	29	635	302	11	121	430	43.3%
平成18年度	26	566	339	8	115	462	41.3%

(3) 生徒の学校生活の状況

- 平成17年度、18年度の入学生で入学時に三修制を希望する生徒が、6校平均で96%を超えている。

《三修制希望者の状況》

	平成17年度		平成18年度	
	I部	II部	I部	II部
三修制希望者数	816	415	808	411
在籍者数	848	430	827	426
割合	96.2%	96.5%	97.7%	96.5%

- 1年次生の部活動の加入率は以下の表のとおりである。

《1年次生の部活動加入状況》

	平成17年度 (加入率)	平成18年度 (加入率)
I部	34.9%	39.4%
II部	7.2%	8.0%

* 桃谷高校を除く5校の平均である。

(4) 中退率の状況

- 中退率は以下の表のとおりである。

《中退率》

	平成 17 年度	
	中途退学者数	割合
I 部	77人	9.1 %
II 部	66人	15.3 %

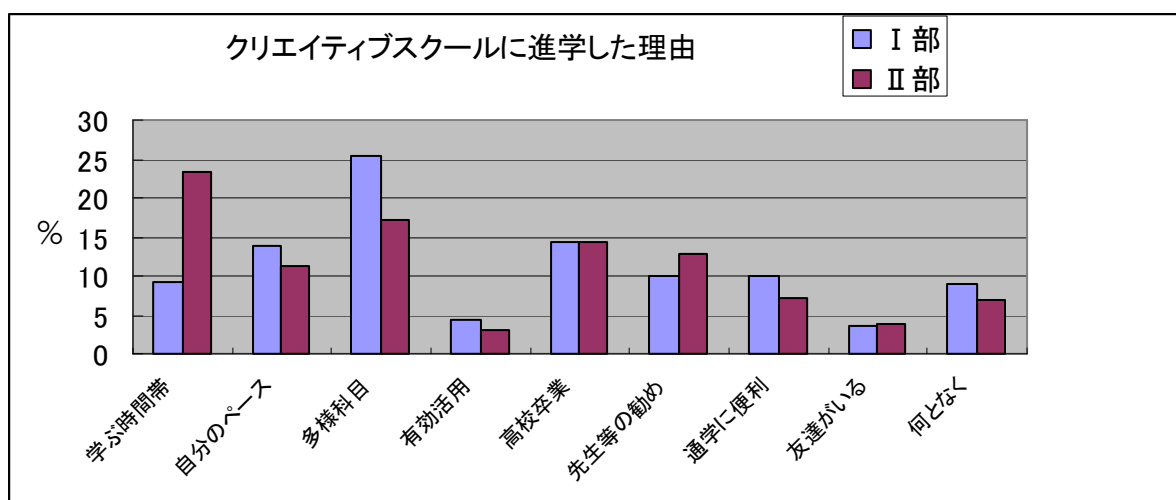
4. 生徒アンケートの結果から

平成 18 年 7 月に多部制単位制高校の校長会が1、2年次生に対してアンケート調査を実施した。回収率は、1、2年次を合わせてI部約72%、II部約57%であった。

- クリエイティブスクールに進学した理由（1、2年次を合わせた数値）

- ・ I部では「多様な科目選択ができる(25.4%)」「高校を卒業したかったから(14.4%)」「自分のペースで学べる(13.9%)」の順である。
- ・ II部では「学ぶ時間帯が選べる(23.3%)」「多様な科目選択ができる(17.3%)」「高校卒業をしたかったから(14.3%)」の順である。

《生徒アンケート》



○ 生徒の満足度

- ・ 「この学校に入学して満足していますか」の問いに対して、Ⅰ部では、1年次生は68.5%、2年次生は57.6%の生徒が肯定的（「満足」と「ほぼ満足」の回答の計）に答えている。同様にⅡ部では、1年次生64.6%、2年次生は55.9%である。
- ・ 「進学した部に満足していますか」の問いに対して、Ⅰ部では1、2年次生とも80%以上の生徒が、肯定的に答えている。一方、Ⅱ部生徒は、70%から60%台となっている。
- ・ Ⅰ部Ⅱ部とも65%以上の生徒が選択した科目に満足している。
- ・ いずれの回答も概ね高い割合になっているが、Ⅱ部においてアンケートの回収率が57%と低かったことは考慮を要する。

《生徒アンケートの主な質問》

(単位：%)

	部	1年次生				2年次生			
		満足	ほぼ満足	少し不満	不満	満足	ほぼ満足	少し不満	不満
入学して満足していますか	Ⅰ部	22.0	46.5	20.4	11.1	15.5	42.1	26.9	15.5
		68.5				57.6			
	Ⅱ部	18.3	46.3	23.2	12.2	16.1	39.8	23.7	20.4
		64.6				55.9			
進学した部に満足していますか	Ⅰ部	41.0	42.3	10.4	6.3	37.9	45.4	12.0	4.7
		83.3				83.3			
	Ⅱ部	27.2	45.7	17.3	9.9	25.8	36.8	22.0	15.4
		72.9				62.6			
選択した科目に満足していますか	Ⅰ部	—	—	—	—	20.2	45.3	29.1	5.4
		—				65.5			
	Ⅱ部	—	—	—	—	15.7	50.6	20.2	13.5
		—				66.3			

5. 多部制単位制高校（クリエイティブスクール）のまとめ

- 多部制単位制高校の入学者選抜の志願倍率は、3年間、Ⅰ部Ⅱ部とも平均1.2倍前後である。
- 6校平均 120 科目程度設置するとともに、学校外における学修（大学や専門学校等における学修、技能審査の成果、ボランティア活動や就業体験等に係る学修など）に係る単位認定や高等学校卒業程度認定試験合格科目等の単位認定を行い、土曜開講も実施するなど多様な学びを提供している。
- 三修制、四修制の選択については、入学時にほとんどの生徒が三修制を希望している。
- 1 時限から8時限までの授業時間帯の設定により、1 年次生の部活動加入状況は、Ⅰ部は4割程度、Ⅱ部は1割未満である。
- 中退率は、Ⅰ部は9.1%、Ⅱ部は15.3%である。
- 不登校生徒に対してきめ細かい指導を行い、成果をあげているという報告もある。
- 生徒のアンケート結果では、
 - ・ 志願理由として多くの生徒は多部制単位制高校の特色である「多様な科目選択ができる」「学ぶ時間帯が選べる」「自分のペースで学べる」などを挙げている。
 - ・ 満足している割合は高いが、回収率の低かったⅡ部の生徒状況をより正確に把握する必要がある。

第5章 夜間定時制の課程（多部制単位制Ⅲ部を含む）

1. 夜間定時制の課程の理念及び特色

（1）設置理念

新しい夜間定時制の課程は、昼間に働きながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実を図る。（全体計画）

（2）特色

- 単位制を導入し、単位修得を支援する。
- 多様な選択科目を開設し、学習意欲や関心を高める。
- ガイダンス機能やカウンセリング機能の充実を図る。

2. 府における夜間定時制の課程再配置校

これまでの全日制の課程を対象とした計画進学率を平成17年度より、全日制の課程に多部制単位制（Ⅰ部、Ⅱ部）を含めた「昼間の高等学校」という枠組みに対応した新たな進学率に改めるとともに、29校の夜間定時制の課程を多部制単位制Ⅲ部を含む15校に再配置した。

学校名	再配置年度	学科（設置系列名）	所在地
桜 塚	平成 17 年度	普通科、単位制	豊中市中桜塚
春日丘	平成 17 年度	普通科、単位制	茨木市春日
大手前	平成 17 年度	普通科、単位制	大阪市中央区大手前
寝屋川	平成 17 年度	普通科、単位制	寝屋川市本町
布 施	平成 17 年度	普通科、単位制	東大阪市下小阪
三国丘	平成 17 年度	普通科、単位制	堺市堺区南三国ヶ丘
桃谷（多部制単位 制Ⅲ部）	平成 17 年度	普通科、単位制	大阪市生野区勝山南
西野田工科	平成 17 年度	総合学科（くらしの機械・電気、教養、 生活デザイン）	大阪市福島区大開
今宮工科	平成 17 年度	総合学科（教養、機械、電気、建築）	大阪市西成区出城
成城（多部制単位 制Ⅲ部）	平成 17 年度	総合学科（ものづくり、情報技術、発見工房、 生活デザイン）	大阪市城東区諏訪

茨木工科	平成 17 年度	総合学科(自動車、ヒューマンサイエンス、 機械・システム・エンジニアリング)	茨木市春日
藤井寺工科	平成 17 年度	総合学科(教養、生活科学、自動車、 CAD・ものづくり)	藤井寺市御舟町
堺工科	平成 17 年度	総合学科(みらい、もの、ひと)	堺市堺区大仙中町
和泉総合(多部制 単位制Ⅲ部)	平成 17 年度	総合学科(ものづくり・ビジネス、 パソコン・英会話・教養、自動車整備)	和泉市富秋町
佐野工科	平成 17 年度	総合学科(技を磨く、モノづくり、 生活教養と情報、多文化共生)	泉佐野市高松東

3.夜間定時制の課程再配置校の状況

(1) 夜間定時制の課程の入学選抜の状況

- 再配置後最初の選抜である平成 17 年度及び平成 19 年度は、一部の学
校で志願倍率が 1 倍を超えた学校があった。

志願倍率が 1 倍を超えた学校の近隣をはじめとする夜間定時制の課程
では二次選抜が実施され、さらに補欠募集を行った学校も多かった。

改革前後の平均志願倍率に大きな変化はない。

志願倍率

学 校 名	H15	H16	H17	H18	H19
桜 塚	0.70	0.67	1.19	0.86	0.86
春日丘	1.14	0.95	1.35	0.91	1.18
大手前	1.10	0.95	0.56	0.78	0.56
寝屋川	0.85	0.90	1.33	0.97	1.01
布 施	0.65	0.73	0.82	0.83	0.63
三国丘	0.86	0.68	1.04	0.75	1.28
桃谷(CSⅢ部)	1.02	1.14	0.92	0.92	1.22
西野田工科	0.55	0.51	0.66	0.55	0.71
今宮工科	0.79	0.89	0.90	0.55	0.74
成城(CSⅢ部)	0.28	0.25	0.86	0.75	0.49
茨木工科	0.51	0.73	0.63	0.71	0.64
藤井寺工科	0.81	0.69	0.83	0.73	0.53
堺工科	0.56	0.59	0.39	0.49	0.43
和泉総合(CSⅢ部)	1.15	1.08	1.14	0.58	0.63
佐野工科	0.52	0.49	0.64	0.48	0.42
平均志願倍率	0.73	0.69	0.88	0.72	0.73

は競争倍率が1を超えた場合

※CSⅢ部とは多部制単位制Ⅲ部を示す

※平成 15 年度、16 年度の志願倍率は府立 29 校の平均

- 二次選抜合格者も含めた収容率については、再配置前後で概ね変化がなく、平成 17 年度以降も夜間定時制の課程へ進学を希望する生徒を十分に受け入れることができる状況である。

収容率(府立夜間定時制の課程)

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
87.6	84.2	93.4	85.2	85.9

※収容率 = (合格者数/募集人員) × 100

収容率の合格者数は二次選抜合格者も含む

- 府内公立中学校卒業生の進路状況から、夜間定時制の課程への進学率の減少以上に、「昼間の学校」への進学率が増加している。
 - ・ 平成 17 年度の進学率を平成 16 年度と比較すると、夜間定時制高校への進学率は 0.7 ポイント減少し、昼間の学校への進学率は 1.1 ポイント増加している。
 - ・ 平成 18 年度の進学率を平成 16 年度と比較すると、夜間定時制高校への進学率は 0.8 ポイント減少し、昼間の学校への進学率は 1.1 ポイント増加している。

大阪府内公立中学校卒業生の進路状況 (平成16年度から平成18年度)

		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
公立中学校卒業生総数		75,098人		71,654人		71,147人	
校種		内訳人数	進学率	内訳人数	進学率	内訳人数	進学率
高校及び 高専	昼間の学校(全 日制、CS I II 部を含む)	68,764人	91.6%	66,438人	92.7%	65,940人	92.7%
	夜間定時制(CS III部を含む)の 課程	1,979人	2.6%	1,342人	1.9%	1,282人	1.8%
盲・聾・養護学校		497人	0.7%	427人	0.6%	491人	0.7%
通信制の課程		1,311人	1.7%	1,203人	1.7%	1,294人	1.8%

※ 平成 16 年度昼間の学校の欄には、桃谷(昼定)を含む

- 入学者に占める女子の割合は普通科で 51%、総合学科では 24.2% である。再配置後、総合学科で普通科目を学習できることから女子の割合が増えている。

平成 19 年度選抜（後期＋二次選抜）合格者数及び男女比率

【普通科】

校名	桜塚	春日丘	大手前	寝屋川	布施	三国丘	桃谷(CS Ⅲ部)	合計	比率
募集人員	80	80	80	120	120	80	50	610	-
合格者(人)	男	44	37	31	71	47	29	280	49.0%
	女	34	43	44	46	44	51	291	51.0%

【総合学科】

校名	西野田工 科	今宮工科	成城(CS Ⅲ部)	茨木工科	藤井寺工 科	堺工科	和泉総合 (CS Ⅲ部)	佐野工科	合計	比率	
募集人員	80	80	80	80	120	80	80	120	720	-	
合格者(人)	男	47	54	35	66	62	51	56	61	432	75.8%
	女	19	17	19	10	25	10	15	23	138	24.2%

(2) 多様な選択科目の開設

① ゼロ時間目授業の開設

- 平成 17 年度から再配置した夜間定時制の課程（多部制単位制Ⅲ部を除く）においてゼロ時間目授業を実施している。平成 17 年度は 700 人余りの受講があり、単位修得率は 33.3%であった。平成 18 年度は年度当初からガイダンスなどに力を注いだこともあり、受講生が 800 人余りと増加し、単位修得率も上昇した。平成 19 年度は科目数も増え、受講者数も約 900 人と増加している。

ゼロ時間目授業実施状況

	科目数	受講登録者数(人)	単位修得率
平成17年度	70	749	33.3%
平成18年度	70	829	37.9%
平成19年度	75	895	

平成19年度ゼロ時間目授業科目

学校	科目名	学校	科目名
桜塚	国語基礎総合	西野田工科	チャレンジ英語
	国語総合演習		チャレンジ数学
	社会基礎総合		チャレンジ読み書き
	社会総合演習	今宮工科	楽しい国語
	数学基礎総合		数学入門Ⅰ
	数学総合演習		数学入門Ⅱ
	理科基礎総合		楽しい英語
	理科総合演習		社会入門
	英語基礎総合		囲碁・将棋Ⅰ
	英語総合演習		建築から見たものづくり
囲碁・将棋	実用ペン習字		
春日丘	時事中国語	茨木工科	自動車工学
	ライフスポーツ		総合スポーツ
	英語演習		総合スポーツ
	異文化理解		総合基礎
	現代史	藤井寺工科	国語の基礎Ⅱ
現代社会	趣味の手芸Ⅱ		
イングリッシュスペース	自動車と社会Ⅱ		
音楽への道	ものづくりの基礎Ⅱ		
中国語入門	生活とパソコンⅡ		
大手前	ヘルスプロモーション	堺工科	健康維持
	高校国語入門		実用書道
	高校数学入門		囲碁・将棋
	高校数学応用		アジアの文化
	高校英語入門		総合基礎
寝屋川	高校英語応用	佐野工科	ラピッドリーディング
	基礎の国語		大阪の歴史
	基礎の英語		電気工事基礎
	中級の英語		日本語基礎
	基礎の数学		日本語入門
数学の演習	ワープロ基礎		
ビジネスの基礎	危険物取扱基礎		
英会話	危険物取扱応用		
三国丘	太極拳入門	交通社会学	
	三味線入門		
	コーラス基礎		
	デッサン基礎		
	数学基礎		
	応用数学A		
	家庭総合基礎		
	手話入門		

② 土曜開講の実施

- 土曜開講では夜間以外の時間帯に授業を行うことができるため、ものづくり等、時間を要する講座や校外での調査研究活動も可能となり、特色ある授業を展開している。平成17年度は多部制単位制高校6校と夜間定時制の課程3校で実施し、平成18年度からは、夜間定時制の課程12校と多部制単位制高校6校で実施し、科目数、募集人数が増加した。単位修得率は平成17、18年度とも40%を超えており、ゼロ時間目授業より高くなっている。

土曜開講実施状況

	実施校数	科目数	募集人数(人)	受講登録者数(人)				単位修得率
				自校生	他校生	社会人	合計	
平成17年度	9	39	732	348	11	125	484	42.0%
平成18年度	18	66	1,141	581	9	130	720	42.8%
平成19年度	18	63	1,420	776	9	131	916	

③柔軟な単位認定

- 学校外の学修や資格取得を認定するなど柔軟な単位認定を実施している。

学校外の学修に係る単位認定

学 科	桜塚	春日丘	大手前	寝屋川	布施	三国丘	茨木工 科	西野田 工科	今宮工 科	藤井寺 工科	堺工科	佐野工 科	桃谷	成城	和泉総 合
	単位制 普通科	単位制 普通科	単位制 普通科	単位制 普通科	単位制 普通科	単位制 普通科	総合学 科	総合学 科	総合学 科	総合学 科	総合学 科	総合学 科	単位制 普通科	総合学 科	総合学 科
学校 外 の 学 修 に 係 る 単 位 認 定	定通併修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高卒程度認定試験	○		○	○	○			○			○	○	○	○
	技能審査	○	○	○		○	○		○			○	○	○	○
	実務代替								○			○			
	その他								※1					※2	

※1 専門学校での学習成果を単位認定
 ※2 東大阪テクノセンターとの技能連携を単位認定

(3) ガイダンス機能とカウンセリング機能の充実

- 科目選択において、ゼロ時間目授業や土曜開講、学校外の学修等の単位修得を奨める上でも、ガイダンス機能の充実を図っている。
- 平成18年度には夜間定時制において定時制専用教室が整備され、ゼロ時間目授業をはじめ様々な学習指導、生徒指導に活用されている。また、保健室、相談室も整備され、配置されているハートケアサポーターを活用してカウンセリング機能の充実も図っている。

4. 再配置による中退率の変化

- 再配置後（平成17年度）1年次生の中退率は減少している。

1年(次)の中途退学者状況
 (夜間定時制12校と多部制単位制Ⅲ部3校の合計)

	平成16年度	中退率	平成17年度	中退率
1年(次)生の中途退学者合計	497人	35.9%	416人	28.7%
1年(次)生在籍者数	1,383人		1,447人	

5. 夜間定時制の課程のまとめ

- 平成 17 年度以降も夜間定時制の課程へ進学を希望する生徒を十分に受け入れることができる状況である。
- 入学者の男女比率は、普通科ではほぼ同数であるが、総合学科は女子が 24.2%となっている。再配置後、総合学科で普通科目を学習できることから女子の割合が増えている。
- 生徒の学習意欲や関心を高め、単位修得を支援するためにゼロ時間目授業、土曜開講や、様々な学校外の学修に係る単位認定を実施している。
- 科目選択においてガイダンス機能の充実を図っている。また、施設の整備やハートケア・サポーターの配置を活用してカウンセリング機能の強化に努めている。
- 夜間定時制の課程再配置後、1 年次生の中退率は減少している。
- 今後は、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として教育内容の充実を図るとともに、各校の教育内容等について一層の周知が望まれる。

第6章 国際・科学高校

1. 国際・科学高校の理念及び特色

(1) 設置理念

国際化、情報化の進展に対応し、コミュニケーションツールとして外国語と情報機器を活用し、豊かな国際感覚や確かな国際理解の下に、科学技術、経済、文化等の分野において、グローバルに活躍できる人材の基礎となる資質・能力の育成をめざすため、海外との交流や、実験・実習を重視した授業展開などに特色を有する新たな専門高校として「国際・科学高校」を設置する。(全体計画)

(2) 特色

- 科学分野での実験・実習や語学分野での体験学習など、観て、聴いて、感じることを重視した教育を推進する。
- 英語・情報機器を活用したコミュニケーション能力の育成を図ることとし、教科学習においても、英語の積極的な活用を図る。
- プレゼンテーションの手法を授業に積極的に取り入れ、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。
- 自国の文化とともに世界の国々の文化や歴史を理解し、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。
- 海外からの留学生を積極的に受け入れるとともに、海外への留学、語学研修、海外修学旅行など、海外における学習機会を充実する。
- 大学、研究機関などと連携した先進的な学習を推進する。
- 科学教育、語学・国際理解教育の取組みの成果を、府立高校全体に発信する。

2. 府における国際・科学高校

学校名	開校年度	設置学科名	所在地
千里	平成 17 年度	国際文化科、総合科学科	吹田市高野台
住吉	平成 17 年度	国際文化科、総合科学科	大阪市阿倍野区北畠
泉北	平成 17 年度	国際文化科、総合科学科	堺市南区若松台

3. 国際・科学高校の状況

(1) 入学者志願状況（志願倍率）

平成 19 年度入学者選抜における志願倍率は、国際文化科は 1.70 倍、総合科学科は 1.76 である。

【志願倍率】国際文化科

学校名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
千里	1.94	1.63	2.04
住吉	1.31	1.38	1.35
泉北	1.27	1.39	1.71
国際文化 合計	1.51	1.47	1.70

【志願倍率】総合科学科

学校名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
千里	2.38	1.95	1.87
住吉	1.29	1.71	1.65
泉北	1.55	1.15	1.76
総合科学 合計	1.74	1.60	1.76

(2) 特色ある教育活動等

○ 国際文化科では週平均 20 時間程度 CALL システム（Computer Assisted Language Learning）を活用した授業を実施している。活用内容は、英語のシャドーイング、ディクテーション、リスニング、アナライザーリスニングなどや課題をデータで提出させたりするものがある。

○ 国際文化科では、英語はもちろんのこと、英語以外の外国語講座（フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語など）も選択科目として開講しており多くの生徒が選択している。

○ 総合科学科では、理数物理・理数化学・理数生物・科学探究基礎において少人数展開授業を実施している。3校でのこれらの授業総時間（総回数）に対する実験・実習の時間（回数）の割合は、平均で 37.1%となっている。

各校の実験・実習では、20名程度という少人数であることから出席生徒全員が実験や実習を行うことが可能となっており、各生徒が実際に器具や対象物に触れ観察する体験が重視されている。

- 総合科学科は、最先端の実験・実習機器を含む理科の実験室の整備がなされたが、これらの機器を一層活用した授業展開が期待されている。
- 生徒のプレゼンテーション能力の向上のため、平成 16 年度から 3 年間、国際・科学高校の教員対象に「プレゼンテーション研修」を実施し、50 名以上の教員が受講した。
- 国際・科学高校においては、通常の修学旅行の代わりに、「海外スタディーツアー」を実施している。「海外スタディーツアー」は、訪問する国や地域の事前学習から始まり、海外での実体験に即した交流や現地校との交流、施設見学を行い、また、日本とは異なる自然や環境の中での調査学習や観察・実験などを経て、帰国後の調査成果の発表までの全体を一連の学習ととらえて実施されている。

(3) 生徒アンケートの結果から

- CALLシステムの活用により、「英語のコミュニケーション能力が高まった」、「英語の学習内容に興味が高まった」について「よく当てはまる」の回答は 4 割を超えている。
- 総合科学科の理科の授業を受けて感じることにについては、肯定的な回答が少ない項目もあり、一層の授業内容等の工夫が望まれている。

H18学校状況調査について(生徒アンケートより)

①CALLシステムの活用状況について

②総合科学科の理科の授業を受けて感じることにについて

	国際・科学全体				国際・科学全体		
	よく当てはまる	どちらともいえない	あてはまらない		よく当てはまる	どちらともいえない	あてはまらない
英語の学習に積極的に取り組むようになった	115	142	70	学習の取り組みが積極的になった	26	171	55
	35.17%	43.43%	21.41%		10.32%	67.86%	21.83%
英語のコミュニケーション能力が高まった	135	150	43	観察したり、実験結果を考察する能力が高まった	61	137	51
	41.16%	45.73%	13.11%		24.50%	55.02%	20.48%
英語の学力が向上した	84	178	65	理科の学力が向上した	43	153	51
	25.69%	54.43%	19.88%		17.41%	61.94%	20.65%
プレゼンテーション能力が身についた	87	160	81	プレゼンテーション能力が向上した	36	125	87
	26.52%	48.78%	24.70%		14.52%	50.40%	35.08%
英語の学習内容に興味が高まった	140	132	54	理科の学習内容に興味が高まった	73	131	47
	42.94%	40.49%	16.56%		29.08%	52.19%	18.73%
英語に関する検定試験を受検した。または、しようと思っている	132	106	89	理科の教科・科目が多く、内容が理解できない	96	107	42
	40.37%	32.42%	27.22%		39.18%	43.67%	17.14%
英語の学習について量が多く速度も速くついていけない	100	156	71				
	30.58%	47.71%	21.71%				

4. 国際・科学高校のまとめ

- 改編後の3年間における平均志願倍率は、国際文化科で1.47から1.70、総合科学科で1.60から1.76となっている。
- 国際文化科では週平均20時間程度CALLシステムを活用した授業を実施している。また、英語はもちろんのこと、英語以外の外国語講座（フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語など）も選択科目として開講しており多くの生徒が選択している。
- 総合科学科では、生徒全員が実際に器具や対象物に触れ観察する体験が重視しており、理数物理・理数化学・理数生物・科学探究基礎において少人数展開授業を実施し、授業時間数のうち約4割を実験・実習に当てている。
- 総合科学科は、最先端の実験・実習機器を含む理科の実験室の整備がなされたが、これらの機器を一層活用した授業展開が期待されている。
- 国際・科学高校においては、訪問する国や地域の事前学習から始まり、海外での実体験に即した交流や現地校との交流、施設見学を行い、また、日本とは異なる自然や環境の中での調査学習や観察・実験などを経て、帰国後の調査成果の発表までの全体を一連の学習ととらえて「海外スタディーツアー」を実施している。
- 国際文化科・総合科学科ともに、特色ある授業や大学等との連携、海外との交流などについて、今後さらに積極的に情報発信する必要がある。
- さらに、国際文化科と総合科学科が連携し融合した研究を行うなど、2つの専門学科が併設されている特長を活かした取組みが期待されている。

第7章 全日制普通科単位制高校

1. 全日制普通科単位制高校の理念及び特色

(1) 設置理念

全日制の時間帯で、自分で学習計画を立て、自分にあった方法で、自らの学習ペースに応じて学力を伸ばす学校として、「全日制普通科単位制高校」を設置する。

(2) 特色

- 生徒一人ひとりが自己の学習ペースに応じて、興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき学習内容を選択することを通して、主体的に学習する姿勢や創造的な個性、進路実現の力をはぐくむ。
- 全日制単位制の趣旨や特色を生かした教育課程を編成し、基礎学力の充実を図るとともに、進路実現にも対応できる多様な選択科目を設置する。
- 科目選択の参考としてモデルプランや「科目群」を設置する。また、科目の選択指導のため、ガイダンス機能を充実させる。
- 集中講座や前期後期毎の単位認定など、単位制の利点を生かせるよう2学期制を実施する。
- 柔軟な単位制の教育システムを活用し、生徒の状況や進路希望などにあわせた教育課程を編成し、様々な教育活動を展開できる。

2. 府における全日制普通科単位制高校

学校名	開校年度	所在地	備考
長吉	平成13年度	大阪市平野区长吉長原西	単独改編
槻の木	平成15年度	高槻市城内町	高槻南・島上高校との統合

3. 志願状況

- ◆ 長吉高校の志願倍率は、年度により1.03～1.60倍と変動が大きくなっている。

- ◆ 槻の木高校の志願倍率は平成 16 年以降、2 倍前後である。

【志願倍率】

校名	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
長 吉	1.28	1.32	1.60	1.23	1.13	1.32	1.03
槻の木	—	—	2.91	1.82	1.95	2.19	2.09

4. 学校生活の状況

- (1) 全日制普通科単位制高校では、生徒の興味・関心や進路希望に対応して、自由
選択科目として平均 94.5 科目を設定している。

【設置科目数】

設置科目数	共通履修 科目数等	自由選択 科目数	合計
平均	24	94.5	118.5

- (2) 部活動加入率

- 部活動の加入率は、学校により異なるが、平均すると以下のとおりである。

【部活動加入率】

部活動参加状況	在籍者数	1年次	2年次	3年次	4年次以降	合計(人)	入部率(%)
平成18年度	1,391	241	237	190	13	681	49.0

- (3) 進路選択の状況

- 進路選択の状況は、学校により異なるが、平均すると以下のとおりである。

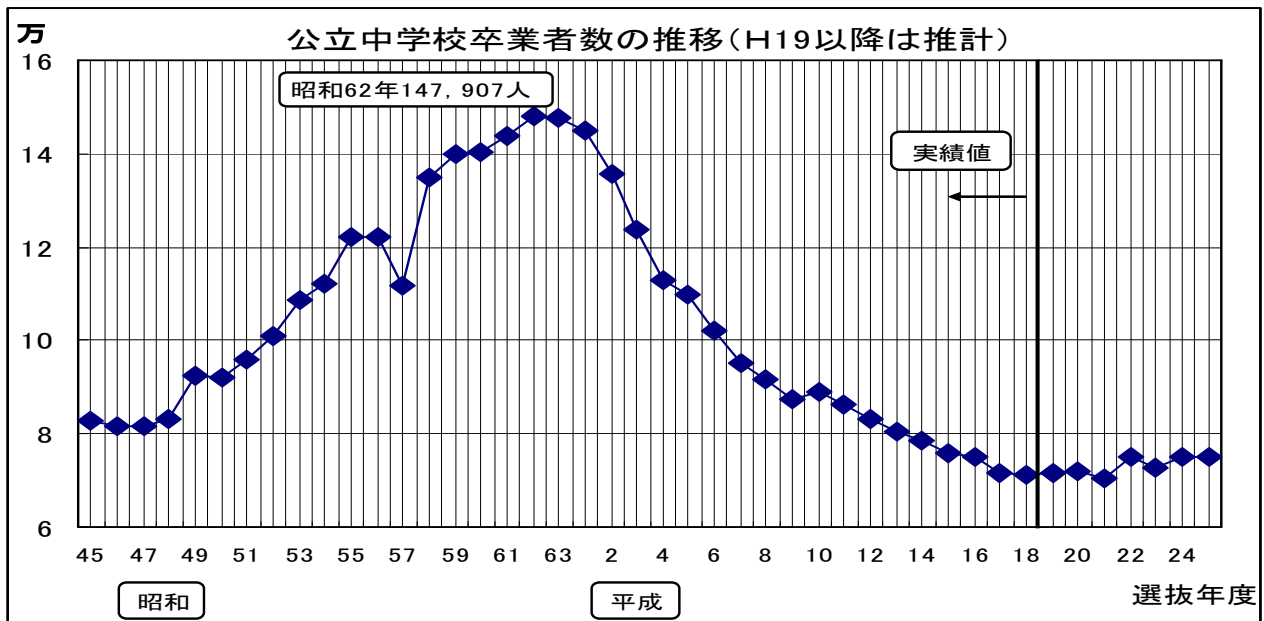
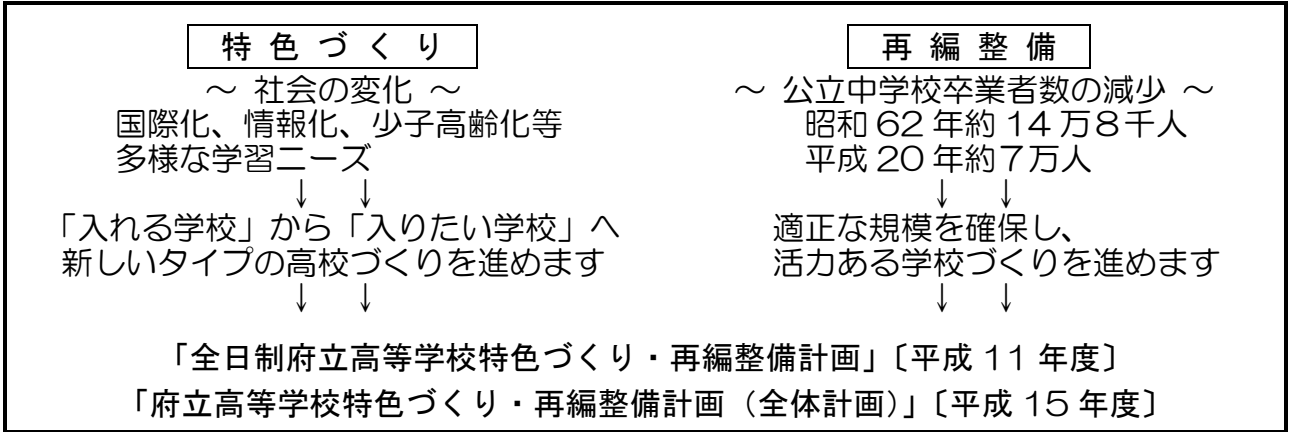
【進路状況】

	卒業年度	卒業者数	大 学	短期大学	専門学校等	就職	その他
平均	17年度	373人	120 (32.2%)	41 (11.0%)	87 (23.3%)	71 (19.0%)	54 (14.4%)

5. 全日制普通科単位制高校のまとめ

- 生徒が、興味・関心、進路希望等に応じて科目選択できるように、必履修科目以外に特色ある科目などの選択科目を約 100 科目設定している。
- 生徒が将来の進路目的達成に必要な科目を選択できるように、多様な選択科目のシラバスを活用するなど、きめ細かなガイダンスを実施している。
- 2 学期制で学期毎の単位認定をしているので、生徒は3年間で最大6回の科目選択の機会がある。
- 進路実現の支援として、放課後や土曜日、長期休業中などを活用して、基礎学力の定着や発展的な学習などの補習や講習を実施している。
- 学校外での学修による単位認定の制度を積極的に活用し、生徒の主体的な学習を推進している（英語検定、漢字検定、書写検定、高校卒業程度認定試験等の成果を単位認定）。また、大学での講義受講による単位認定や、インターンシップ、大学教官による出前講義などを行っている学校もある。
- 自らの学習ペースに応じて学びたい生徒や再チャレンジしたい生徒、帰国渡日生徒など、多様な生徒の学習の場になっている学校では、募集人員に対する卒業生数の比率は、改編後 5 割台から 6 割台となっている。
- 学校行事等において、ホームルーム単位での参加形態をとっている学校では、学校行事は活発である。個人の自主的な活動を重視し、個人やグループのエントリーによる参加形態をとっている学校では、学校行事への参加率は高くない。

「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」の概要



【全体計画の経緯】

- ・平成11年 4月 「教育改革プログラム」の策定
- ・平成11年 11月 「全日制府立高等学校特色づくり・再編整備計画」を策定
第1次実施対象校決定以降13年度第3年次実施対象校まで決定
- ・平成14年 5月 学教審答申「今後の後期中等教育のあり方について」
- ・平成15年 5月 学教審答申「今後の府立工業高校のあり方について」
- ・平成15年 11月 「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」を策定
平成15年度（第1年次）実施対象校決定 以降、順次実施
- ・平成18年 11月 平成18年度（第4年次）実施対象校の決定

【全体計画のポイント】

①全体計画の基本理念と計画の前提

- ・「入れる学校」から「入りたい学校」への特色ある学校づくり
適正な規模を確保して活力ある学校づくり
- ・府立高校全体を対象
- ・計画期間は平成20年度まで
- ・昼間の高等学校に対応する新たな計画進学率 92.3%から 93.9%へ
公私受入分担比率 7：3、1学級 40人
普通科高校・工科高校 1学年8学級規模、
多部制単位制高校 1学年最大8学級規模
総合学科・普通科総合選択制等 6～7学級

②統合整備基準

特色ある高校のバランスある配置と、適切な学校の組合せ

- ・府立高校設置数が2校以上の市町村を対象（既に1校が特色ある学校の場合は除外）
- ・通学区域内の隣接する2つの市町村の「地域」を対象とし、平均募集学級数の最も少ない「地域」を対象
- ・市町村域を越えた統合も実施

③計画の公表・対象校の決定方法

- ・具体の対象校は、生徒減少の状況、各学校の特色ある取組み等を判断する必要から年度ごとに決定
- ・毎年、最も少子化の進んだ地域で統合を実施

④必要に応じた計画の見直し

公立中学校卒業生数、公私受入分担比率、通学区域など、計画の前提に変更が生じた場合には必要の都度、計画の見直しを図る。

【これまでに開校した特色ある高校 [平成 18 年度対象校まで]】

<p>普通科総合選択制 (○数字は通学区域)</p>	<p>① 豊島 福井 北摂つばさ ② 大正 門真なみはや 枚方なぎさ 緑風冠 四條畷・寝屋川地域新高校 (平成 20 年度開校予定) ③ 八尾翠翔 かわち野 西成 金剛 東大阪・八尾地域新高校 (平成 20 年度開校予定) ④ 成美 伯太 日根野</p>
<p>総合学科</p>	<p>能勢 (中高一貫校) 千里青雲 柴島 芦間 枚岡樟風 八尾北 今宮 松原 堺東 貝塚</p>
<p>全日制普通科単位制</p>	<p>槻の木 長吉 鳳新高校 (平成 20 年度開校予定)</p>
<p>多部制単位制</p>	<p>箕面東 桃谷 咲洲 成城 東住吉総合 和泉総合</p>
<p>専門高校</p>	<p>農業高校 … 園芸 農芸 (平成 18 年度新教育課程) 工科高校 … 茨木工 西野田工 淀川工 今宮工 城東工 布施工 藤井寺工 堺工 佐野工 総合造形高校 … 港南造形 国際・科学高校 … 千里 住吉 泉北</p>

教育改革プログラム（平成11年4月）抜粋

【Ⅱ】大阪の教育改革

21世紀を展望し、大阪の教育の現状と課題や社会の変化、完全学校週5日制等を踏まえ、大阪の伝統を活かし元気で独創的な学校と教育を創造するため、憲法・教育基本法をはじめ関係諸法令に基づき、以下の点を重視した人づくりを目指して教育改革を推進する。

- 社会の一員としての自覚と規範意識を身につける
- 基礎・基本の上に、自ら考え、判断し、行動する力を養う
- 進取の精神とたくましく生きるための健康・体力を養う
- 生命と人権を尊重し、他者を思いやる豊かな人間性をはぐくむ
- 自然や美への感性を磨き、個性と創造力をはぐくむ
- 郷土への誇りをもち、世界に目を向けた生き方を養う

教育改革の推進に当たっては、過度の受験競争を緩和するなど子どもが「ゆとり」の中で生き生きと学び生活できるよう、社会全体が一丸となって取り組むことが重要である。このような観点から、学校教育の再構築と家庭・地域社会の総合的な教育力の再構築を図ることとする。

1 学校教育の再構築

(1) 学校改革

児童・生徒一人ひとりの個性や創造的能力、豊かな人間性をはぐくみ、学（校）歴にとらわれない生き方が可能となるよう、幼児期からの教育の充実を図り、多様な学習ニーズと幅広い進路選択に対応した特色ある学校づくりを進める。

また、各学校における教育をより効果的に推進するため、各学校間の連携を強め、幼児教育から中等教育までの一貫性を図る。

さらに、それぞれの学校にすべての機能を整えて自己完結するという考え方ではなく、市町村が有する施設・設備・人材等のもとより、地域社会や民間の資源等、学校外の協力を得て、学校教育を推進する体制を整備する。

③ 府立高等学校の充実

中学校卒業者のほとんどが高等学校に進学する中で、府立の高等学校が、多様な学習ニーズに応え、地域に根ざして次代の大阪を担う人材を育成するという使命は、ま

すます大きなものとなっている。

このような観点を踏まえ、今後の府立高等学校の改革を進める。

i) 特色づくりの推進

生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応し、多様な学習と幅広い進路選択ができるよう、府立高等学校において特色づくりを推進する。さらに、海外から帰国した生徒や高等学校に再チャレンジしようとする生徒の受入れ、社会人のリカレント教育等、国際化や生涯学習社会への移行に対応した取組みを一層充実する。

[具体的取組み]

ア) 総合学科の拡充

普通科目と専門科目にわたる多様な科目を開設する総合学科を、現状の3校から各通学区域に1校程度配置できるよう拡充する。その際、大阪の地域特性を生かした「国際理解」や「芸術文化」、現代社会における人間の心理や行動を学ぶ「人間科学」、新しい時代に対応した「環境」「情報」「福祉」など、特色のある系列を持つ総合学科を地域的にバランスよく配置する

イ) 全日制単位制高校の設置

- a) 学年による教育課程の区分を設けず、所定の単位を修得すれば卒業できるシステムを持ち、生徒自らが主体的に選択した学習計画に基づいて学ぶことができる全日制単位制高校を複数校設置する
- b) 全日制単位制高校等の設置と併せて定時制・通信制の課程の適正配置のあり方について検討する

ウ) 新たな専門高校の設置

国際理解教育と情報教育を総合的に学ぶ国際情報高校、他の学校も利用できる先端的で高度な機器や装置を備えた総合先端技術高校などの新しいタイプの専門高校を設置する

エ) 普通科の特色づくりの推進

- a) 従来の普通科目を主体としながら、情報、福祉、国際理解、芸術等の専門科目を幅広く選択できる「総合選択制」を導入した学校を各通学区域に複数校整備する。その際、それらの専門科目を学年の枠を越えて選択できるよう、教育課程の弾力的な運用に努める
- b) 音楽、体育、情報処理等のコースについて、さらに専門性を高める学習や

資格取得を目指した学習ができるよう、専門学科に準じる程度に専門科目を拡充する

- c) すべての普通科において、地域の実情や生徒の実態に応じて、それぞれのスクールカラーが明確になるよう、教育課程の一層の改善を図るとともに、教育活動に創意工夫を凝らし特色づくりを推進する

オ) 職業学科の特色づくりの推進

- a) 職業学科を設置する専門高校の入学者選抜において、機械科、電気科といった小学科ごとではなく、工業科といった大学科で選抜し、第2学年から小学科を選択させる「総合募集」を拡大する
- b) 職業学科において、資格取得や大学進学に対応した新たなコースを設けるなど、教育課程の工夫改善に努める。また、それぞれの小学科において選択科目数を増やすとともに、小学科の枠を越えて学ぶことができるよう選択幅の拡大を図る
- c) 生徒が先端技術や企業の実態に触れ、豊かな職業観や勤労観をはぐくむことができるよう、産業界との連携を図り、専門技術者の招へいを拡充する。また、職業教育の担当教員が専門知識・技術の向上を図るため、企業派遣研修を充実する
- d) 企業等における職場体験を通じて、生徒に自己の適性や将来について考えを深めさせ、豊かな職業観や職業選択能力をはぐくむため、「インターンシップ（就業体験）制度」の活用を促進する
- e) 中学生の高等学校における体験学習の機会の拡大を図るとともに、地域の行事等に積極的に参加することなどにより、職業学科に対する中学生をはじめとした府民の理解を深める。また、地域社会における生涯学習の充実のため、施設・設備や教員の専門的知識・技能等を積極的に提供する
- f) アジアをはじめとする海外の高校生との技術交流など、国際化に対応した取組みを拡大する

カ) 中高一貫教育の整備方向の検討

中高一貫教育のあり方については、市町村教育委員会や小・中・高等学校等の代表者からなる大阪府中高一貫教育研究会議において、プロジェクトチームを設けて実践的な研究を推進し、平成11年度末までに一定の結論を得て、早期に方向性を明らかにする

ii) 新たな教育システムの導入

地域の実情や生徒の実態に応じて、教育効果を一層高める観点から、学期の区分や授業時間の運用を弾力化し、学校外の学習の機会を拡大する等の新たな教育システムを導入する。

[具体的取組み]

ア) 二期制の拡充

1学年を4月から9月までの前期と10月から3月までの後期に分け、学期による区切りを少なくすることにより、多様な履修形態が可能となるよう二期制の導入を拡充する。あわせて、各期ごとに単位認定を行うなど、単位の修得について一層の弾力化を図る

イ) 授業時間の弾力的運用

50分を標準としている授業について、ロングタイム授業やショートタイム授業を導入するなど、教科・科目の特質や教育内容等に応じて授業時間の工夫を図る

ウ) 教科・学年の枠を越えた学習の導入

「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「環境」「国際理解」等の教科の枠を越えた横断的・総合的な学習の導入を進めるとともに、学年の枠を越えて学ぶことができるよう、教育課程の工夫改善を図る

エ) 転編入制度の弾力化等の推進

中途退学の増加等に対応し、個に応じた教育を展開するため、学校の成績判定に係る内規や転科制度の弾力化を推進する。あわせて、中途退学者が高等学校へ再チャレンジできるよう編入学制度の弾力化を進める

オ) ハブ高校の創設など学校間連携の推進

- a) 専門高校や総合学科、スクールカウンセラーの配置校など特色ある教育活動を重点的に進める学校をハブ高校（拠点校）として、近接した学校との交流を推進する
- b) 生徒の選択学習の機会を拡大し、教育課程の一層の多様化を図るため、在籍校以外で開設されている科目を学ぶことができるよう学校間連携を推進する。また、授業以外の学校行事等においても、他校と合同での取組みを工夫する

カ) 学校外における学習機会の充実

- a) 生徒の個性や能力の伸長、学習への動機づけ、資格取得等に資するため、大学や専修学校等における学習、ボランティア活動等の社会貢献活動への参加、技能審査の受験などを奨励し、その成果を単位として認定する制度の活用を推進する

b) 生徒が自己の適性や将来について考え、豊かな職業観や職業選択能力を身につけることができるよう、企業等における体験学習を進める

iii) 全日制府立高等学校の特色づくり・再編整備の実施

生徒減少期を教育環境・教育条件など教育の質的向上を図る好機と捉え、府立高等学校の特色づくりとあわせて適正な配置の観点から再編整備を推進する。

[具体的取組み]

ア) 特色づくり・再編整備計画

既存の学校の改編や、複数の学校それぞれの良さを発展的に継承する形で統合すること等により、以下のとおり特色づくりと合わせた再編整備を推進する

年度	普通科		総合学科	全日制 単位制 高校	専門高校	計
	普通科	専門学科併置、 総合選択制等				
平成10	117校	19校	3校	—	16校	155校
↓ (特色づくり・再編整備の実施)						
平成20	76校	29校	9校	4校	17校	135校

(注1) 現行の学級定員(40名)、計画進学率(92.3%)、公私分担比率(7:3)を前提とし、学校規模を普通科の単独校については1学年8学級(320名)、特色のある学科等については1学年6~7学級(240~280名)として試算した。

(注2) 学校数の計には、単位制による定時制・通信制課程の高校(1校)は含まない。

(注3) 専門高校には職業学科を設置した専門高校を含む。

イ) 特色づくり・再編整備計画の推進

a) 平成11年度から平成20年度までの10年間を3期に区分し、計画的に再編整備を進める

第1期	第2期	第3期
平成11年度～ 平成14年度	平成15年度～ 平成17年度	平成18年度～ 平成20年度

b) 府教育委員会に設置した高校改革推進室において、再編対象地域・対象校を選定し、具体的な実施計画を策定する

ウ) 特色づくり・再編整備計画の見直し

今後、公立中学校卒業者数や学級定員、計画進学率、公私分担比率等の前提条件に変動が生じた場合には、必要の都度、見直しを図る

工) 生徒受入れに関する条件整備

- a) 入学者選抜方法については、個々の学校の特色や実情に即したのものとなるよう工夫改善に努める
- b) 計画進学率のあり方について検討し、平成 14 年度までに結論を得る
- c) 通学区域と学校選択のあり方について検討する